



秋期企画展「埼玉の食と菌類」(左からキコウジカビ、酵母、マツタケ (撮影：近藤芳明氏)、おっきりこみ)

かわはく No.84

CONTENTS

開催報告：令和7年度 秋期企画展 埼玉の食と菌類	2
開催案内：スロープ展示 河原の植物	4
開催予告：令和8年度 春期企画展 巡礼者は秩父を目指す！ ～文献とモノから見つめ直す秩父札所の歴史～	5
学芸員コラム：伝統漁法「荒川の瀬張漁」	5
学芸員コラム：困ったときは神頼み？	6
学芸員コラム：マムシに注意！	7
学芸員コラム：土の手ざわり	7
イベント情報コーナー 12・1・2・3月	8



開催報告

令和7年度 秋期企画展 埼玉の食と菌類

開催期間：2025年10月4日(土)～12月7日(日)

平成25年（2013）に日本の伝統的な食文化「和食」が、令和6年（2024）には日本酒を含む日本の「伝統的酒造り」が、ユネスコ無形文化遺産に登録され、日本の食文化に世界の注目が集まっています。

この企画展では、毎日の食事に欠かせない発酵食品に関わる菌類にスポットを当て、県内の郷土食やお酒類（日本酒・ワイン・ビール・ウイスキー）、パン、醤油・味噌について紹介しました。

さらに、“菌類そのもの”を食べる例として、主に秩父地方で食べられてきた野生のきのこや、地衣類のイワタケ、近年、県内でも栽培が行われているマコモタケなども紹介しました。

■展示室の様子

入口近くに設置した展示ケースでは、秩父の郷土食や、食事の合間に食べるおやつ「小昼飯」のレプリカを展示しました。

「食」の楽しさを演出する居酒屋風の背景は、当館の職員がデザインしました。黒板に書き込まれたメニューは、マコモタケやイワタケを使った料理になっています。

また、昭和レトロな「カワハクワイン」や、館長の名前が銘柄名になった「清酒 小川」のポスターなども描かれており、遊び心満載です。



入口近くの展示

「食」に関わるきのこやカビ、酵母などの「菌類」が、どのような生物なのかを知ってほしい、というのが本展示の目的の一つでした。

菌類は、納豆菌や乳酸菌などの細菌類（バクテリア）と混同されることが多いのですが、実は菌

類は、細胞のつくりや進化の過程において細菌類とは大きく異なっています。

展示の前半部では、きのこの標本やレプリカ、加藤由里子さんによる美しい菌類画とともに菌類のさまざまな生態について紹介しました。



菌類についての展示

秋、きのこ狩りの対象となるきのこの多くは、樹木と根で共生している「菌根菌」です。本展示では、食用になる菌根菌の代表としてマツタケを紹介しました。

日本人に好まれるマツタケの香りは、西洋では「吐き気を催す香り」や「蒸れた靴下の匂い」などと表現され、敬遠されることもあるのだとか。一方、西洋ではトリュフ（セイヨウショウロ）の香りが好まれる傾向があります。そこで、2つのきのこの匂いを比較できるハンズオン展示を設けました。



いい匂い？嫌な匂い？きのこの香り体験コーナー

展示の後半では、発酵のしくみを分かりやすく紹介し、日本酒をはじめとする酒類や、パン、味噌・醤油の醸造の過程と歴史に関する資料を展示しました。



昔ながらの酒づくりの道具などを展示

県内におけるお酒の歴史で特筆すべきは、奥秩父（秩父市）の山中に建つ、三峯神社でのお神酒づくりです。

江戸時代の境内を描いた『三峯山全図』では、本堂の裏手に「酒造蔵」が描かれ、仕込み水を水舟（水を貯めておくための木製の水槽）から樋で引いてくるなど、水に乏しい山中での酒づくりの様子がうかがえます。

三峯神社に詣でた人々による旅日記では、この酒蔵が見学スポットの一つだったこと、そしてお酒が飲み放題だったことなどが記されています。



三峯神社における酒づくりを紹介

■企画展関連イベント報告

・10月5日(日) 地形と水とお酒Ⅲ

2024年に始まった「地形と水とお酒」シリーズ第1弾は、深谷駅周辺（滝澤酒造株式会社）、第2弾は小川町（松岡醸造株式会社）を歩いて地形と水について学び、酒蔵を見学しました。

今回は、利根川中流の右岸に位置する深谷市北部にて、浅間山の天明噴火の痕跡とお酒の関係を見て回りました。

酒蔵を見学させていただいたのは、深谷市横瀬の丸山酒造株式会社。杜氏の丸山和崇さんより、浅間石が使われている酒蔵や、神流川に由来する

仕込み水、そして菌類とお酒の関係について、ご解説いただきました。



ウォーキングイベントの様子

・10月13日(月・祝) ミニきのこ展

このイベントは昨年から実施していますが、今年は埼玉きのこ研究会の共催で行いました。

前日（10/12）に美の山（皆野町）で開催された研究会の定例観察会にて、採集されたきのこおよそ100種を展示しました。

当日は準備中に続々と参加者が集まり、350名以上の方々にきのこを楽しんでいただきました。

また、この日はリバーホールにて、きのこや発酵食品がデザインされた包みボタンの出展販売も行いました。



ミニきのこ展の様子

このほか、11月には川島町の金笛しょうゆパークを見学する「醤油づくりを学ぶウォーキング」や、展示解説を実施しました。

本展示やイベントを通じて、菌類について知識を深めるとともに、埼玉に根付く「食」の魅力を再発見していただけたのであれば幸いです。今後も菌類に親しむ展示や体験を企画していきたいと思っています。

（学芸グループ 板垣ひより）



開催案内

スロープ展示 河原の植物

開催期間：2025年9月30日(火)～2026年2月1日(日)

川の博物館の前を流れる荒川には、広い河原があり、様々な植物を観察することができます。河原を歩くと、初夏から秋は、河原を覆い尽くすように緑が生い茂りますが、晩秋から冬には、それらの植物がなりを潜めて緑色が目立たなくなります。しかし、一見枯れてしまったかのような植物も近づいてよく観察すると、花や実をつけていて、その多様さに驚きます。本展示では、そんな河原の植物に注目し、河原の環境を考えてみました。



秋の河原のようす

砂や小石がたまった河原は、泥や土がないため乾燥しやすく、特に水ぎわから離れた広い河原は夏には高温にもさらされる厳しい環境です。一方で、大雨が降ると増水して水浸しになったり、土砂が上に被さったりと、環境が急変します。また、増水で植物が流されたり、草刈りが行われたりと、植物のない空き地ができる機会が頻繁にあり、外来種が入り込みやすい環境でもあります。そのため、観察できる植物の多くは外来種であることも河原の特徴の1つと言えるでしょう。

このような厳しい環境を克服し、ほかの植物との競争に打ち勝つために、植物がとる戦略がいくつかあります。本展示では、その戦略ごとに植物を写真で紹介しています。



河原にまともって生育するツルヨシ

まず、早く、高く生長する植物です。河原の周辺では、穂をつける背の高いイネ科植物がよく観察できます。どれも一見そっくりですが、それぞれ生育場所が異なります。



竹に這い登るクズ

次に、長いつるをのぼす植物です。地面だけでなく、ほかの植物の上に覆い被さるように広がり、電柱など背の高いものにも這い登っていきます。夏にはクズが、秋にはアレチウリが特に目につきます。

いつの間にかに服についている、くっつきむしも戦略の1つです。種子散布の方法は様々ありますが、本展示では重力散布、動物散布（くっつきむし）、風散布に分けて植物を紹介しています。



くっつきむしのコセンダングサ

おわりに、河原で見られる外来種と、そして、海外へわたって迷惑がられている日本の在来種も紹介しています。

河原に生育する植物には、校庭やコンクリート敷きの道路でも見かけるようなものがあります。乾燥と高温にさらされる点で、河原と似たような環境なのでしょう。今回紹介している植物は、どれも河原で普通に見られる身近な植物です。河原や道端の植物を知ること、立ち止まって足元の植物にも目を向ける機会になればうれしいです。

(学芸グループ 三瓶ゆりか)



開催予告

令和8年度 春期企画展

巡礼者は秩父を目指す! ~文献とモノから見つめ直す秩父札所の歴史~

開催期間：2026年2月7日(土)～5月6日(水・振休)

秩父地域に所在する34ヶ所の観音札所を巡る秩父巡礼は、室町時代に成立したとされます。観音札所は、西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所、秩父三十四ヶ所を併せて、百観音信仰としても発展を遂げました。

秩父は、江戸から近いこともあり、江戸の町人や武士がこぞって巡礼で訪れたことが知られています。しかし、江戸時代における秩父巡礼の痕跡を探すと、北は青森県から南は宮城県まで、日本全国から秩父を目指した巡礼者がいたことが分かります。本企画展では、『道中日記』や『納経帳』といった文献やモノを通して、秩父巡礼の実態に迫ります。

さらに、サテライトで開催するスロープ展示「納経帳の変遷」(2026年2月3日～6月21日)では、現在確認できる最古の秩父札所の納経帳である宝永3年(1706)『納経覚帳』から現在に至るまでの約320年間の納経帳の変遷について、実

物を並べて紹介します。御朱印ブームが始まって久しいですが、御朱印の始まりである納経とはどんなものなのか、どのようにして現在の形に整えられていったのかを一覧できる、またとない機会となります。

2026年は、12年に一度の「秩父札所午歳総開帳」の年でもあります。ぜひ、本展示を見てから、実際の秩父路を歩いてみてください。



右：宝永3年(1706)『納経覚帳』(武甲山御嶽神社蔵)

左：令和7年(2025)『納経帳』

いずれも1番札所 四万部寺の御朱印

(学芸グループ 矢嶋正幸)

学芸員コラム

伝統漁法「荒川の瀬張漁」

荒川には、瀬張漁という伝統的なアユ漁が残っています。瀬張漁では、まず川幅いっぱいに杭を打ち込んで仕掛けを作ります。次に、川の中ほどに、麦わらを取り付けた縄を張り、両サイドには「くの字」型に網を張って魚道を設置します。麦わらに驚いたアユが、魚道の先にある「モジリ」とよばれるうけ筥に入るといいう仕組みとなっています。

秩父では、大正15年生まれの岩田巻太郎氏が自身のおこなった漁について証言を残しているように、かつて瀬張漁は荒川各地でおこなわれた漁法でした。現在、廃れた漁法となってしまった背景には荒川の開発が関係しています。

『荒川調査報告書』によれば、秩父地域では昭和半ば以降、ダム建設や砂利の採取により、河床岩盤が露出したため杭が打てなくなり廃れたとあります。また、秋ヶ瀬取水堰ができたことにより、天然アユの遡上がなくなり、昭和59年度の荒川中央漁協での許可数は4件にまで減りました。そ

れでも熊谷市内では、秋アユを獲るための漁法としてほそぼそと続けられてきました。

現在、瀬張漁を続けているのは、熊谷市の小彼貞夫さんと孫の内田将暉さんだけです。数年前までは小彼さんとその仲間でおこなっていましたが、古くからの漁師は高齢のため引退し、ここ数年は2人だけでおこなうようになっているそうです。

今年9月20日に当館では、瀬張漁の実地調査をおこないました。午前中に仕掛けた筥に何匹ものアユがかかるほどの豊漁で、調査に同行した人たちは皆一様に荒川の豊かさに感嘆の声をあげました。来年度も当館では、瀬張漁などの伝統漁法を継承するためのイベントを計画しています。



荒川産アユの塩焼き

(学芸グループ 矢嶋正幸)



困ったときは神頼み？

「お米が高くてなかなか買えない」っと、いきなり当館の季刊誌に、私の愚痴（世間の皆様の愚痴）・悩みを書いてしまったのですが、日本の主食である「お米の販売価格の高騰問題」は、ここ最近の世間のトレンドの1つです。

令和7年（2025）夏、日本の米どころの1つである新潟県で、水不足ならびに高温障害により、米の生育がどうなるのか、あまり良くないのではないかと予想されているということが、お米の値段高騰もあいまって大きく報道されました。米農家さんが、水田を見ながら頭を抱えている様子や、各地で発生した水害により、水田をはじめとした耕作地が水没してしまっている状況も、例年以上に報道された印象もあります。

この「食」に対する心配事で世間があたふたする状況は、決して今に始まったわけではありません。「食」に関する問題は、やはり私たちの日々の生活に直結することから、昔から世間の大きな心配事でした。そして困った時に頼るのは、神様。神様への願い事の1つになっていました。

前置きが長くなってしまいましたが、今回はそんな人々の願いが如実に表れている写真を紹介したいと思います。



大山講の灯籠と九頭竜様（東松山市内で撮影）

撮影した場所は、令和元年東日本台風の被災地でもあり、現在も堤防の築堤工事等の河川改修工事が進められています。

写真中央の灯籠は、大山阿夫利神社（伊勢崎市）に詣でる大山講に由来するもので、農家さんの立場で考えると、「どうか雨が降ってください」という祈りを捧げていたことを示しています。

その左隣、大山講の灯籠に比べれば少し小さいのですが、他にも神様が祀られています。大山講の隣に祀られているのは「九頭竜様」（戸隠神社・長野市）で、阿夫利神社同様、雨乞いにまつわる神様です。しかし、埼玉県内では堤防の決壊を防いでくれる神様として祀られている場所も多く見られます。「堤防が決壊しないでください」ということは、つまり「雨が降らないでください」と言い換えることもできます。

「雨が降ってください」とお祈りする神様と「雨が降らないでください」とお祈りする神様を隣合わせにお祀りして、神様同士でケンカすることはないのかと、私はついつい余計な心配をしてしまうのですが、やはり農家さんにとって農作物の生育状況を左右する「水問題」はそれほどに大きな心配事であり、困った時はやはり神様に頼るしかないという当時の人々の心境を今に物語るものではないかと思います。

この話、一見すると笑い話のようにも聞こえてしまうのですが、お米の価格問題に揺れている昨今、かたや雨が降らなくてお米が育たない、かたや雨が降りすぎてお米が育たないと報道されている状況から見ても、これらの神様を祀った当地の人々の心境は十分に分かりますし、困った時は神様をお願いしたくなるといった心境も理解できるのではないかと思います。

そして、この地は令和元年東日本台風の被災地の1つであることも忘れてはいけません。九頭竜様が祀られているということは、過去にも水害があったことを示しています。この写真は、単に「食」に対する先人からの教訓を示してくれているだけでなく、水害に対しても常に備えておきなさいという教訓も、私たちに伝えてくれているのではないかと考えます。

（学芸グループ 羽田武朗）



学芸員コラム



マムシに注意！



猛暑がようやく落ち着き、急速に秋が深まってきました。夏の暑さであまり見られなかった生きものも、ちらほらと出てきています。今回は、何かと嫌われている「ヘビ」の話題です。

ヘビの話題で気になることは、毒があるか否かではないでしょうか。日本を代表する毒ヘビとして、ニホンマムシが挙げられます。

ニホンマムシは、日本列島とそのまわりの島々に分布しますが、国内では対馬（長崎県）にのみ、別種のツシママムシが分布します。強力な毒を持っているのはもちろん、コワモテの面構えと特徴的な銭形模様は、いかにも毒ヘビ然としたルックスです。

マムシ類は主に夜間に活動しますが、日中にふいに遭遇することもあります。基本的には大人しいヘビですが、気づかず急接近してしまうと攻撃を仕掛けてきます。「藪や草むらに不用意に入らない」「気づいたらまわりの人にも教える」「近づかずにすぐその場を離れる」といった行動で大概

の事故を防ぐことができます。

さて、マムシのライバル格（？）としてよく知られているアオダイショウは、毒はありませんが、最大2mを超える体サイズと強靱な筋力を持ち、移動能力が高く、スイスイと樹上に登ることができます。一方、マムシは移動能力に劣り、木登りはできません。

また、マムシ類は毒で獲物を弱らせ、アオダイショウは獲物を身体でぐるぐる巻きに締めて弱らせます。

当館の周辺では、これまでにニホンマムシを含む8種のヘビが確認されています。それぞれに生態が異なり、大きさや見た目も様々です。



ニホンマムシ

(学芸グループ 藤田宏之)

学芸員コラム



土の手ざわり

土の感触のイメージはどのようなものでしょうか。ふわっとしたやわらかいイメージでしょうか。

土のもとになるのは、岩石や火山灰などの風化物（無機物）と、生き物由来の有機物です。砂と違って土には有機物が含まれている、というのがミソですが、これらはバラバラではなく、お互いにくっつきあって存在しています。この塊かたまりは、特に地表面近くでは1mm～1cmくらいの粒状のものとして観察でき、「団粒」とよばれます。

団粒は、土壤動物のフンがもとになったり、植物の根から出る分泌物などが接着材になったりして出来ています。少々の雨では崩れませんが、指で持つとやわらかく、押すと潰れます。その中に大小のすきまがあるからです。

すきまは、団粒と団粒の間にもできます。このようなすきまは、合わせると土全体の半分くらいを占めることもあり、砂とは違うふわっとした感触をもたらします。

団粒があることは、単純にすきまがあるということだけでなく、大小様々な生きもののすみかや、水の通り道あるいは貯える場所、養分などを貯める場所などとしても重要です。

もちろん土にはかたいものやヌルっと

した手触りのものもあります。こういった土の感触は無機物として存在する粘土（細かい粒）の量、乾燥あるいは湿潤の程度、有機物の量などによって異なるので、触るだけでもどんな土かを知る手がかりになるといえます。

皆さんもまわりにある土の手ざわりを是非試してみてください。（学芸グループ 森圭子）



12月

～7/日 秋期企画展「埼玉の食と菌類」

2/火

季節のイベント「かわはくライトアップ」(～25/木)
時間：16:30～17:00

内容：大水車と本館を美しくライトアップします。

6/土

秋期企画展 展示解説

時間：①10:00～ ②13:30～

内容：展示の見どころを学芸員が解説します。

7/日

体験教室「リースづくり」

時間：13:30～15:30 費用：300円 定員：8組

内容：自然素材を使ったリースづくり教室です。

あそぼう・まなぼう「土でアート作品づくり」

時間：13:30～15:30

内容：世界土壌デー(12/5)を記念して土を使ったアート作品をつくります。

14/日

研究室「顕微鏡でケイソウを観察しよう」

時間：13:30～15:30

内容：水の中のケイソウや珪藻土を観察します。

かわはくこども交流員 (21/日も開催)

時間：13:00～14:30 費用：500円 定員：5名

内容：館内アナウンスなど交流員のお仕事を体験します。

25/木

季節のイベント「クリスマスオルゴールコンサート」

時間：15:00～16:30

費用：2,000円(大人)、1,000円(子供) 定員：30名

内容：レストランでオルゴールのコンサートが楽しめます。

27/土

季節のものづくり「ミニ門松づくり」

時間：①10:00～11:30 ②12:15～13:45

③14:00～15:30

費用：3,500円 定員：各回10名

内容：家に飾れるオリジナルの門松をつくります。

2026

1月

4/日～18/日

荒川図画コンクール

4/日

季節のイベント「お正月あそび」

時間：10:00～16:00

内容：カルタ取りや羽根つきなどのお正月あそびを体験します。

季節のものづくり「干支飾りづくり～お馬さんのかわいい置物をつくる!～」

時間：①10:30～12:00 ②13:00～14:30

費用：1,500円 定員：各回12名

内容：羊毛フェルトで2026年の干支「馬」をつくります。

10/土

あそぼう・まなぼう「まゆだまづくり」

時間：13:30～15:30

内容：繭を使った小正月の行事を体験します。

11/日

かわはくこども交流員 (25/日も開催)

時間：13:00～14:30 費用：500円 定員：5名

内容：館内アナウンスなど交流員のお仕事を体験します。

17/土

体験教室「泥染めに挑戦」

時間：13:30～15:30 費用：400円 定員：15名

内容：土を媒染剤にして布を染めます。

18/日

研究室「荒川で冬のバードウォッチング」

時間：①9:30～ ②14:30～ 費用：100円(保険料)

定員：各回15名

内容：園内やかわせみ河原で見られる冬の鳥を観察します。

2月

7/土～

春期企画展「巡礼者は秩父を目指す!」

1/日

あそぼう・まなぼう「かわはくで豆まき」

時間：①11:00～ ②14:00～

内容：節分の行事「豆まき」が体験できます。

8/日

かわはくこども交流員 (22/日も開催)

時間：13:00～14:30 費用：500円 定員：5名

内容：館内アナウンスなど交流員のお仕事を体験します。

14/土

春期企画展 展示解説

時間：①10:00～ ②13:30～

内容：展示の見どころを学芸員が解説します。

15/日

研究室「変形菌ってなんだ!?顕微鏡で見てみよう」

時間：13:30～15:30

内容：顕微鏡で変形菌(粘菌)の子実体を観察します。

21/土

体験教室「甘酒はなぜ甘い?コウジカビのはたらき」

時間：13:30～15:30 費用：200円 定員：15名

内容：コウジカビを観察し、ペーパークラフトを組み立てます。

季節のイベント「ミュージアムカフェ 教えて館長!博物館ってなあに?」

時間：13:30～15:00 費用：500円 定員：12名

内容：館長と「博物館」について気軽にお話しを楽しむミュージアムカフェです。

3月

1/土

研究室「かわはく周辺の石造物を見てみよう」

時間：13:30～15:30

費用：100円(保険料)

定員：随時10名

内容：当館周辺にある石碑や石仏を巡り、その見方を解説します。

8/日

春期企画展関連イベント「秩父札所の歴史と文化」

時間：13:30～ 費用：無料 定員：50名

内容：秩父札所連合会会長による、札所の歴史と文化についての講演会です。

かわはくこども交流員

時間：13:00～14:30 費用：500円 定員：5名

内容：館内アナウンスなど交流員のお仕事を体験します。

14/土

体験教室「水の中にもカビがいる?」

ミクロワールドをのぞいてみよう

時間：13:30～15:30

費用：200円

定員：15名

内容：水中に暮らすカビの胞子を顕微鏡で観察します。

20/金・祝

あそぼう・まなぼう「かわはくサクラWALK」(～4/19/日)

時間：9:00～17:00

内容：園内に咲くサクラを巡るスタンプラリーです。

21/土

荒川ゼミナール「高麗川・越辺川を歩く2」

～暴れ川の痕跡を探る～

時間：10:00～16:00

費用：300円(保険料)

定員：20名

内容：荒川の支流である高麗川と越辺川沿いを散策し、「暴れ川」の痕跡を解説します。

28/土

春期企画展関連イベント「地形でひもとく札所の秘密」

時間：10:00～15:00(予定)

費用：100円(保険料)

定員：20名

内容：札所周辺の地形を歩くウォーキングイベントです。

ホームページでも紹介しています!

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②印のついた行事は事前申し込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館



〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(学芸グループ) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。
<https://www.river-museum.jp>または「かわはく」で検索
X(旧Twitter)でもイベントの配信を行っています。
かわはく HP トップページ二次元コードはこちら →

2025年11月30日発行

